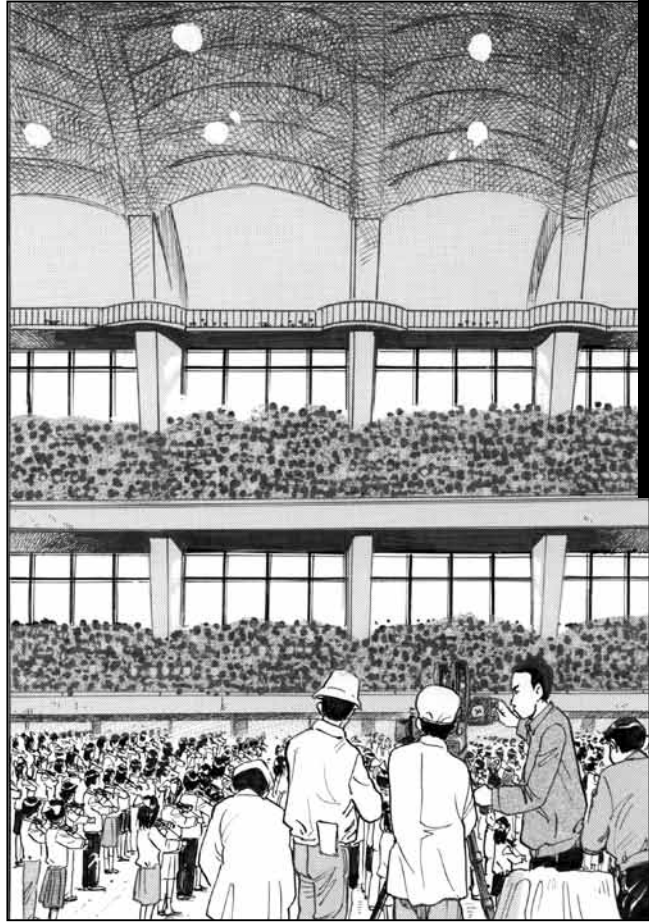


いよいよ開催、第1回全国大会

マンガ版 鈴木鎮一物語

第11回



文京公会堂で、敬愛するチェロのカザルスに激賞された鈴木鎮一



松本でのコンサートと鈴木鎮一との交流を終えたピアノの名手、コルトーを見送る子どもたち



チェロのロストロポーヴィチも子どもたちとの交流を通して、スズキへの理解を示した



ヴァイオリンのオイストラフと訪れた明德幼稚園。オイストラフは全国大会にも参加している

海外の芸術家たちとの交流は、才能教育運動のごく初期の頃から、絶え間なく続きました。多くは、遠い島国の日本の、それも松本に誕生したスズキ・メソッドの実際を見ようとする芸術家たちの思いから、出逢いが実現したのです。

ヴァイオリンのミッシャ・エルマン、アルテュール・グリュミオー、レオニード・コーガン、ダヴィッド・オイストラフ、ピアノのアルフレッド・コルトー、チェロのパブロ・カザルス、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、アンドレ・ナヴァラ、フルートのマルセル・モイーズなど、音楽史上に残る数多くの名白楽たちとの邂逅は、互いの人生を彩り豊かなものに変えていきました。

一流の芸術家たちが奏でる演奏をこよなく愛した鈴木鎮一は、レッスンのたびに「先生は誰ですか？」と生徒に質問を投げかけていました。通常で考えるなら、目の前の鎮一が先生になる訳ですが、鎮一は、子どもたちに、大家の演奏を聴くことを日々の生活で常に求めています。そのため、子どもたちが「ハイフェッツです」とか、「エルマンです」と答えると「グリュミオー先生やクライスラー先生にも教えてもらえるといいですね」と鎮一は、応えていたものでした。「耳を育てる」ことで音楽的なセンスを磨くスズキ・メソッドの特色は、こうしたエピソードにも現れています。

1952年第1回卒業式
東京共立講堂。
翌年、第2回は青山学院
大学講堂で行なわれ、
大成功に終わった。



鎮一は
才能教育運動が
確かな成果を
あげていることを
実感していた。



そうです！
参加できる子全員が
ステージに上がるのです。

子どもたちの
励みにもなるし、
きっと素晴らしい
コンサートになるでしょう！



松本音楽院、
理事会での席。

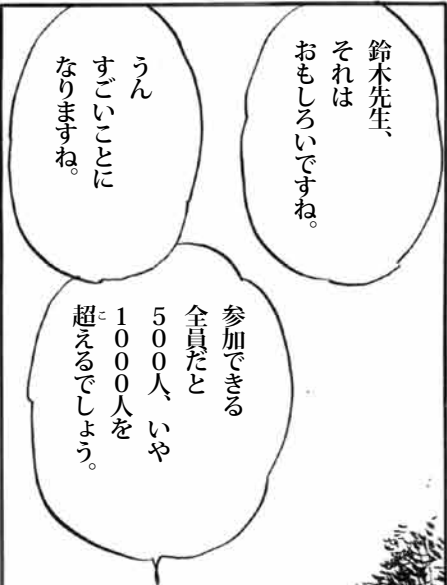


今日は
理事の皆さんに
私から
提案があります。

卒業式を卒業生だけの
演奏会ではなく、全員で
卒業生をお祝いする会として
開いてはどうでしょうか？



全員…ですか？



鈴木先生、
それは
おもしろいですね。

うん
すごいことに
なりますね。

参加できる
全員だと
500人、いや
1000人を
超えるでしょう。

それだと今までの
会場では無理ですね。
会場を探しましょう。

前例のないことで
準備も大変ですね。



忙しい
なりますね。



1955年
3月27日、
前夜の雨も
上がり、快晴。

東京千駄ヶ谷にある
東京体育館。

全国からヴァイオリンを
抱えた子どもたちが
集まってきた。

会場までの砂利道を、
一家総出で歩く姿や、
祖父母と手をつないで
参加する姿があった。



関東近頃はもちろん、
長野、富山、新潟、
名古屋、さらに京都、
大阪と
全国にわたっていた。

全国大会
才能教育研究会

会場前では、
京都弁の子どもたちと
岐阜弁の子どもたちが
お国言葉で仲良く笑顔で
話し合う姿も見られた。



また、会場には
多くの報道陣や
カメラの中に、
映画撮影のための
カメラが
5台あった。

特別に撮影を
お願いした
新理研映画の
カメラである。



1年前の松本。
鎮一宅。

鈴木さ〜ん
航空便です。

留学されている
望月さんという方
からの手紙ですが、
兄さんは
ご存知ですか？

いや、

望月謙児さん……
知らない人
だなあ。



望月謙児は
トロント大学に留学中の
学生である。

望月は9歳の頃
音楽コンクールで一位に
なった江藤俊哉(12歳)の
演奏を聴いていた。
その素晴らしさに
「いったいどんな先生が
教えたのだろう」と
心に留めていた。



第1回卒業式の演奏を見て
深い感銘を受けた望月は
鎮一の教育理念に興味を持ち、
講演にも通い、
根底にあるものは

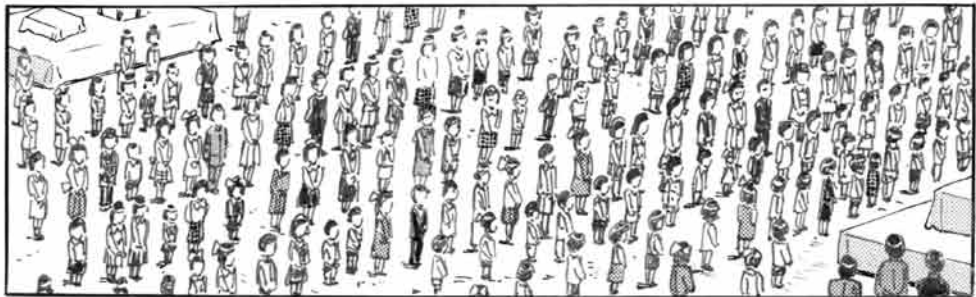
「愛と奉仕の精神」であり、
キリスト教と同じであることに気づく。
その後、望月は、留学先のカナダや
アメリカにもぜひ紹介したいと
鎮一に手紙を送ってきたのだ。

鎮一はこの手紙
に心を打たれ、
子どもたちの
録音テープを
送った。



しかしアメリカでは
子どもたちが演奏している
とは信じてもらえず、
望月は彼らを納得させる
ために子どもたちが演奏
している「映像が欲しい」と
連絡してきた。





式はすべて
順調に進行して
いった。



どうしてなの？

渡す子どもは
もう増えただよ。

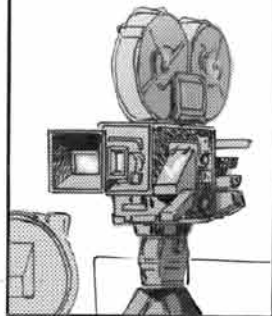


あ、
鈴木先生に
贈る花束を
忘れてる！



午前10時開場

鎮一はよい機会だと思い、
苦しい経済事情を押し、
映画撮影を
実行することにした。



当日は3月にしては
大変寒く、まだ地面が
まだった体育館には
子どもたちの動きで
土埃が舞った。



第3回卒業生は
613名。
晴れの舞台である。

これだけ大規模な
大会にも関わらず、
運営は手作りで行なわれ、
指導者たちが子ども
たちを先導した。



では第3回
卒業式を
始めます。



大丈夫
ですかね？

子どもたちが
騒がしいですね。



みんなうれしいの
でしょう。

大舞台
ですからね。



はい、君
この花を
渡しなさい。

伊藤理事が卓上の
花瓶から花を抜き、
子どもに渡して
贈呈となった。



そして歴史的な
コンサートは、
午後2時から始まった。

徳川義親名誉会長の
ご招待により、来賓として
皇太子殿下(現天皇陛下)を
はじめ、高松宮同妃両殿下、
秩父宮妃殿下など
皇族方をお迎えした。



二階正面の
貴賓席には
他に各国外交団
(アルゼンチン・ドミニ
カ・フランス・フィン
ランド・オランダ・ベ
トナム) 大使館員が
列席した。



第一部最初の曲は、100名
を越す子どもたちによる
モーツアルトの
「ヴァイオリン協奏曲第5番」



チエロパートには
あのカザルスの下で
研鑽を積んだ
佐藤良雄先生が
4人の門下生とともに
特別に出演した。



指揮者がスタート
の合図を出し、
壇上から降りる
スタイルは、
この時からだ。



演奏が進むに連れて
体育館の2階、3階を
埋め尽くした父兄たちも
身を乗り出して
聴き入っていた。



ある親は
体でリズムを取り、



ある親は
指で……。



一心不乱に親たちは
子どもたちの演奏に
集中した。

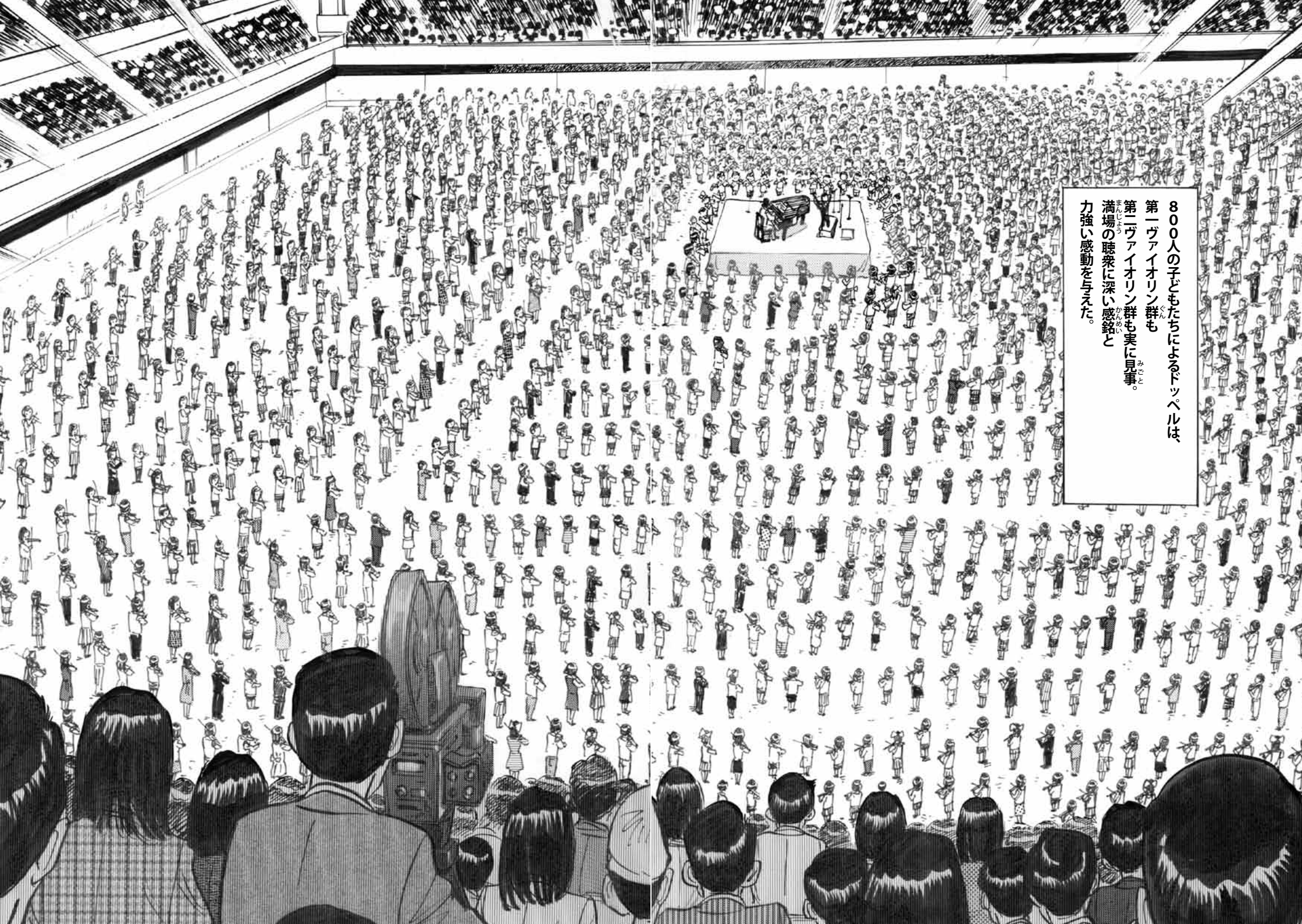


鎮一の理念は
子どもたちの演奏に
現われ、聴衆の心に
染み通っていった。

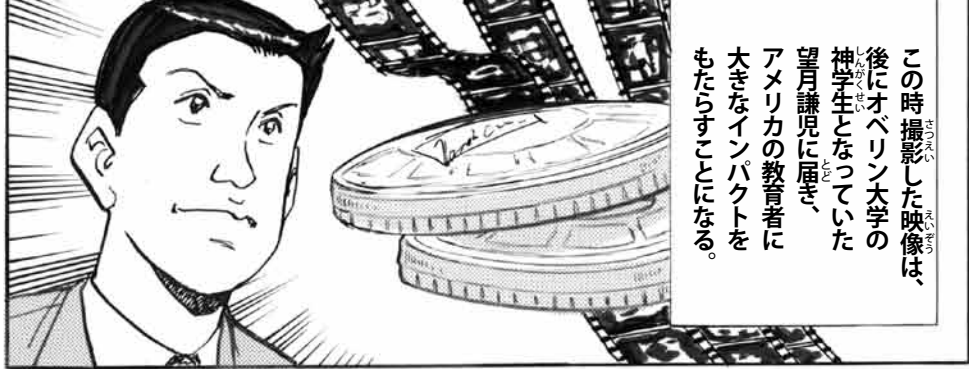


そして第一部
ドッヘルへ!



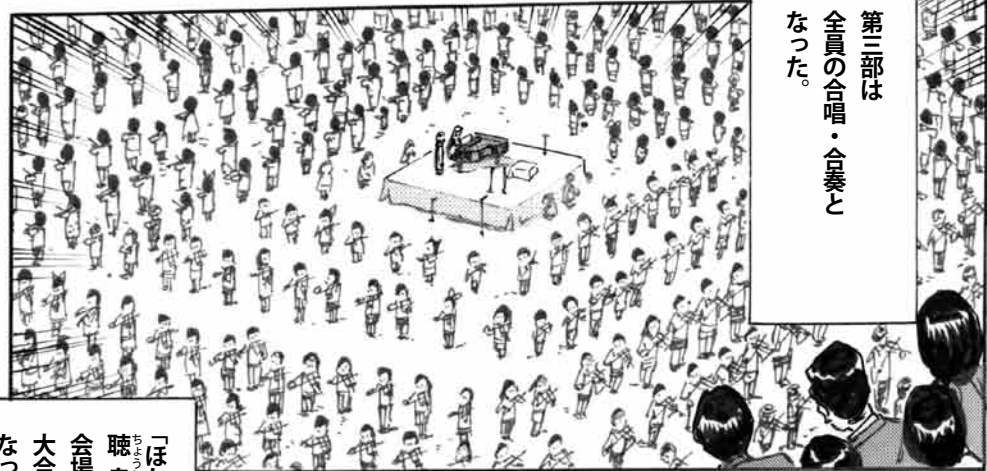


800人の子どもたちによる「ツェル」は、
第一ヴァイオリン群も
第二ヴァイオリン群も実に見事。
満場の聴衆に深い感銘と
力強い感動を与えた。



この時撮影した映像は、後にオベリン大学の神学生となっていた望月謙児に届き、アメリカの教育者に大きなインパクトをもたらすことになる。

ここで紹介した全国大会が、後のグラントコンサートに発展します。アメリカでのインパクトは、またあらためて紹介しましょう。



第三部は全員の合唱・合奏となった。

「ほたるの光」など3曲には聴衆も加わり、会場すべての人々による大合唱のフィナーレとなった。



鎮一は大合唱の指揮をしながら、あらためて実感していた。この子どもたちの姿は、けっして特定な子どもたちの集まりではない。こっしてお互いが心を一つにして、共演している姿と、その育てられた力こそは、地上の他のすべての子どもたちの可能性を代表するものであると。

全国大会の成功は、鎮一たちの才能教育運動の具体的な成果の一つとなり、以後、毎年続いていくことになる。

大会に出席したフィンランド総領事ラグナル・スメツランドは「コンサートの聴衆は、子どもが幼くても才能を開花させることができるという証拠を見つけたに違いない」とヘルシンキの新聞に書いている。



日本の各新聞もコンサートの写真を載せ、「1200人の大合奏」と大きく伝えている。